

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）
2013年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属・職名	氏名		
	社会学部・教授	間々田 孝夫 印		
研究課題	ポスト・アメリカ化時代の消費社会研究—日中同時調査に向けて			
研究組織	所属機関・部局・職名	氏名		
	社会情報教育研究センター・助教	廣瀬	毅士	(学内研究分担者)
	社会学部・助教	三田	知実	(学内研究分担者)
	社会学部・プログラム・コーディネーター	野尻	洋平	(学内研究分担者)
	弘前学院大学社会福祉学部・講師	藤岡	真之	(学外研究分担者)
	信州大学人文学部・准教授	水原	俊博	(学外研究分担者)
	文京学院大学人間学部・准教授	寺島	拓幸	(学外研究分担者)
	早稲田大学社会科学総合学術院・助教	鈴木	康治	(学外研究分担者)
	早稲田大学文学学術院・助手	畑山	要介	(学外研究分担者)
研究期間	2013年度 ～ 2014年度			
研究経費	2013年度	2014年度	年度	総計
(上段：支出金額)	2,096千円	千円	千円	2,096千円
(下段：採択金額)	2,109千円	3,885千円	千円	5,994千円

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクト研究は、学問分野としては経済社会学の立場を中心としつつ、日本との比較、およびグローバルな消費社会の動向という観点から、中国の消費者意識・消費者行動を調査し、分析しようとするものである。

本プロジェクトの運営母体である「グローバル消費文化研究会」のメンバーは、これまで日本国内の消費者意識・消費者行動の実証分析を積み重ねてきた。2013年度においては、グローバルな消費動向を把握するため、上海都心部の現地調査と、現地研究機関に所属する研究者とのミーティングを実施した。

2013年度の研究活動の成果は、2014年度に実施する中国を対象とした中規模調査と、今後実施する日中大規模調査の基盤整備として位置づけられる。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[グローバル化] [東アジア] [上海]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)中国・上海都市部における、量的調査にむけた基盤整備
—文献研究と現地フィールドワーク—

本プロジェクト研究は、学問分野としては経済社会学の立場を中心としつつ、日本との比較、およびグローバルな消費社会の動向という観点から、中国の消費者意識・消費者行動を調査し、分析することを目的としている。2013 年度の研究は、中国で試験的意味をもつ中規模の量的調査を行うための基盤整備を重点的におこなった。具体的には、以下の 4 つの作業を重点的におこなった。

1. 中国消費社会についての先行調査および先行研究の整理
(2013 年 4 月～11 月)
2. 調査対象地・上海市のフィールドワーク・現地研究者との研究打ち合わせ
(2013 年 11 月 21 日～11 月 24 日)
3. フィールドワークから明らかになった上海都市部についてのディスカッション
(2013 年 12 月～2014 年 3 月)
4. 2014 年度日中比較調査(質問紙調査および構造化面接)の可能性と限界を明確化(2013 年 12 月～2014 年 3 月)

1. 中国消費社会についての先行調査および先行研究の整理

まず 2013 年度 4 月から 10 月にかけて、本研究プロジェクト推進のコア機能を果たす「グローバル消費文化研究会」を定期的で開催し、研究代表者、分担者、協力者が、中国の消費社会、生活様式、都市空間の現代的諸相にかんする文献のレビューをおこなった。それにより、中国都市部の住民による生活様式や消費水準、そして中国都市部の消費構造について知識を共有することができた。レビューの対象としたのは、次の分野の文献である。

- (1) 中国における消費水準、消費構造のマクロ動向に関する先行研究
- (2) 中国消費文化の最新動向に関する先行研究
- (3) 中国消費文化の背景をなす社会変動についての先行研究

2. 調査対象地・上海市のフィールドワーク・現地研究者との研究打ち合わせ

2.1 現地研究者との研究ミーティング

上記の先行研究のレビューをおこない、中国都市部の実態を把握したうえで、2013 年 11 月 21 日から 11 月 24 日まで、現地研究者である華東師範大学専任講師・呉金海氏との研究ミーティングと、現地の商業施設と都市空間の諸相に焦点をあてたフィールドワークを、上海市内でおこなった。研究ミーティングで協議した内容は、以下のとおりである。

【研究ミーティングでの決定事項】

- ・呉金海氏に、本研究プロジェクトにおいて研究協力者として参与していただく。
- ・上海調査において、呉氏および現地研究者が、調査対象者・当局への対応を行う。
- ・上海における実査のコントロール・センターを華東師範大学が担当する。
- ・調査票の翻訳(監修)およびプリテストの実施方法について確認した。
- ・中国の消費社会論/社会調査の専門知識を有する協力者とコネクト方法の確認。
- ・SFR 資金により実施する予備調査(中規模調査)の時期を、2014 年 9 月に行う。そのために今後、具体的な調査票作成の準備を順次開始することを確認。
- ・上海での調査方法、サンプリングの方法、サンプリングに用いる台帳の閲覧方法(居民委員会→世帯→個人へのアプローチ)、および配布・回収方法にかんする詳細な確認。
- ・調査票調査における郵送調査、訪問調査の可能性と限界について確認を見定める。
- ・中国の調査票事情(禁止されている項目など)の確認。

以上 9 つの議題について、上海での研究ミーティングで議論を深め、日中合同調査に向けたスケジュールを今後具体的に確定してゆくことを、確認した。

研究【経過・成果】の概要 つづき**2.2 上海の主要商業施設および繁華街の現地調査 (フィールドワーク)**

研究ミーティングの前後では、上海市内の公共交通機関(上海メトロ)を利用し、都心部の都市空間の諸相、および商業施設のテナント構成、小売店での販売商品の全体的把握をおこなった。

それにより、上海都心部の新しい消費動向を捉えられる地区を把握でき、店舗調査を通じて、上海に住まうひとびとの、消費動向の実態把握をおこなうことができた。

3. フィールドワークから明らかになった上海都心部についてのディスカッション

上海現地調査後のグローバル消費文化研究会では、上海が、アジア主要都市のなかで、いちばん多様性に満ち溢れた商業施設・テナントが空間の構成要素となっているのではないかと、という議論が導かれた。あわせて上海都心部では、所得格差の可視化が著しく、グローバル都市特有の問題をも把握することができた。こうした議論が、計量調査分析における理論仮説の設定、調査票作成や、分析結果・考察に大きく反映されるものと、強く期待できる。また今回の調査は、非常にタイトな日程でおこなったにもかかわらず、研究分担者の洞察力を駆使しながら徹底的な踏査と都市空間・商業施設の観察をおこなった。それにより世界的に流通している財やサービスの消費形態が、上海ないし中国特有のものである事例を多数見出すことができた。とりわけ、脱物質主義が浸透し、真物質主義が萌芽する状況下の東京における消費動向と大きく異なる点として、物質主義が著しく浸透していることが、フィールドワークから明らかにされたといえる。

4. 2014 年度日中比較調査 (質問紙調査および構造化面接) の可能性と限界

2013 年度の本研究プロジェクトでは、中国都市部の消費動向、上海都心部の空間の現代的諸相、商業施設の現代的諸相を実践的に把握し、2014 年度上海調査にむけた基盤整備をおこなうことができた。そこに 2013 年度研究成果の学術的意義が見出せる。しかし、短期間で膨大な量の情報を得たため、再度整理することにより、理論的問いと理論仮説の設定、調査票の作成、標本抽出、実査の方法、日中比較分析の方法と、学術的知見を明らかにできる見込みと、本研究の限界点を見定めることが、残された課題として挙げられる。ただこの課題については、上海調査終了後、課題達成に向けた議論を深めているため、本格的な調査準備前には克服できるものと見込んでいる。

5. 2014 年度において見込まれる研究の達成度

これらの研究課題を達成し、なお一層の実査に向けた研究基盤整備を継続的にこなす。それにより 2014 年度は、東京と上海における、消費構造と消費動向にかんする動態分析の精緻化を可能にし、これまでの消費研究が見出せなかった、アジア圏における消費社会の動態分析にかんする学術的知見をみいだすことができ、社会学的考察を深めた、研究成果を生み出すことができるものと確信している。

6. 研究会開催実績

名称：グローバル消費文化研究会

2013 年度実績

SFR 第 1 回日時：2013 年 6 月 1 日 (土) 17:00~18:30 立教大学 12 号館地下 1 階第 1 会議室

SFR 第 2 回日時：2013 年 7 月 6 日 (土) 15:00~17:00 立教大学 16 号館 3 階第 2 会議室

SFR 第 3 回日時：2013 年 8 月 5 日 (月) 18:00~20:00 立教大学 12 号館 2 階会議室

SFR 第 4 回日時：2013 年 9 月 7 日 (土) 13:00~18:30 立教大学 15 号館マキムホール 10 階第 2 会議室

SFR 第 5 回日時：2013 年 10 月 5 日 (土) 15:00~19:00 立教大学 12 号館地下第 4 会議室

SFR 第 6 回日時：2013 年 11 月 1 日 (金) 18:00~20:00 立教大学 12 号館地下 1 階 第 1 会議室

SFR 第 7 回日時：2013 年 12 月 20 日 (金) 18:00~19:00 立教大学 13 号館第 1 会議室

SFR 第 8 回日時：2014 年 3 月 9 日 (金) 13:00~15:00 立教大学 12 号館第 1 会議室

参加者：間々田孝夫 (社会学部)・廣瀬毅士 (CSI)・三田知実 (社会学部)・野尻洋平 (社会学部)・藤岡真之 (弘前学院大学社会福祉学部)・水原俊博 (信州大学人文学部)・寺島拓幸 (文京学院大学人間学部)・鈴木康治 (早稲田大学社会科学総合学術院)・畑山要介 (早稲田大学文学学術院)・本柳亨 (早稲田大学)・朝倉真粧美 (株式会社ビデオリサーチ調査分析部)・陳蕭蕭 (流通経済大学大学院) 以上 12 名。

※ この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 博士学位論文

野尻洋平,『デイヴィッド・ライアンの監視社会論』立教大学大学院社会学研究科博士論文, 2013.

藤岡真之,『消費社会の変容と健康志向—脱物質主義と権威主義に着目して』立教大学大学院社会学研究科博士論文, 2013.

② 図書

鈴木康治,「第9章 文明としての自己抑制—B.マンデヴィルの統治論における恐怖情念の検討」仲正昌樹編『「法」における「主体」の問題—叢書アレテア 15』,2013,お茶の水s書房.

③ 雑誌論文

廣瀬毅士,「消費にまつわる階層地位変数の効果」『経済社会学会年報』35号, 2013, 106-114.
間々田孝夫・遠藤智世,「真物質主義」の担い手は誰か」『応用社会学研究』(立教大学社会学部) 56, 2014, 47-61.

寺島拓幸,「失われた20年」のファッション消費—低価格志向は消費量に影響するか?」『文京学院大学人間学部研究紀要』15-1,2013,19-30.

三田知実,「大阪府中央区南船場における問屋街からファッションナブルな都市細街路への変容過程」『応用社会学研究』(立教大学社会学部) 56, 2014, 123-140.

水原俊博,「後期ボードリヤールの社会理論の社会学的検討」『信州大学人文科学論集』48,2014, 93-103.

鈴木康治,「消費の高度化の新展開—食品安全性に配慮した消費行動の分析を通じて」『早稲田社会科学総合研究』(早稲田大学) 14 (3), 45-59.

③ その他 (学会報告)

畑山要介,「『社会的経済』と『倫理の市場』の分岐点—K.ポランニーとF.ハイエクの社会観の比較を通じて」2013-14年度経済社会学会東部研究例会,2013年12月14日,早稲田大学早稲田キャンパス.

畑山要介,「コミュニケーション・メディアとしてのソーシャル・ラベル—フェアトレード認証制度を事例として」第49回経済社会学会全国大会自由論題報告 2013年9月22日,大阪商業大学.

廣瀬毅士「消費に階層格差は生じているか?—社会調査データからの接近—」平成25年日本行動計量学会 第41回大会, 2013.9.4, 東邦大学.

水原俊博,「後期ボードリヤールの社会理論の社会学的検討—透明性、悪、無、不可能な交換など」,日本社会学会大会,2013年11月23日・慶応義塾大学三田キャンパス.

三田知実,「大阪府中央区南船場における問屋街からファッションナブルな都市細街路への変容過程」大阪市立大学文学研究科「都市の研究会」研究報告 2013年11月3日,大阪市立大学杉本町キャンパス.